

# スローテンポ通信

第 37 号

2020年8月31日

発行:スローテンポ書店

〒323-0023 小山市中央町 3-7-1 ロブレ地階

☎ 0285-32-7211

Eメール [usagimokamemo@gmail.com](mailto:usagimokamemo@gmail.com)

ブログ『うさぎもかめも』

<http://usagimokamemo.blog.fc2.com/>

## 今月のおすすめ

### ○『演劇に何ができるのか?』

妹尾伸子、嶽本あゆ美、堀切和雅  
アルファベータブックス 2017年  
2500円+税 ☆☆☆☆☆★

妹尾伸子がおもしろい。あまりにもおもしろくて、できるだけゆっくり読みたいと思った。非行少年もひきこもりも演劇部に入れれば治る。いじめも学級崩壊も演劇をやらせれば解決する。「確かに」とうなづかされる。

世界は演劇を中心に回っている、と感じてしまうが、それでは演劇をやらない人は人間じゃない、となってしまう。読者は、そこまで洗脳されないように!

### ○『小説 アドルフ・ヒトラー』

#### ① 独裁者への道

濱田浩一郎 著  
アルファベータブックス 2020年  
1800円+税 ☆☆☆☆

独裁者ヒトラーの生涯を描いた歴史小説、全3巻のうちの①巻。

ヒトラー自身が、何をどう感じ、どう思い、どのように行動したのかを少年時代から描く。人との関りや教育によって、子どもはほとんどない人間にも育っていくことがよくわかる。

政情不安になると、独裁政権への警戒が叫ばれるが、そんな心配よりも、独裁者にならない教育や、子どもを教育する大人たちの教育が必要だろう。

\* \* \*

## 言いたいことが言えるようにするには

我々は常に無言の圧力を受けている。わかりやすいえば「あきらめ圧力」だ。抑圧の歴史からくるのだろう。

重い年貢に苦しめられても、一揆や反乱を起こせば、問答無用で、全員が捕えられて処刑され、村ごとつぶされたり、地域や地方が丸ごと消滅させられた。北海道、沖縄に対する植民地的統治や東北の支配を成功させたのは、徹底した弾圧であった。

弾圧の歴史から、日本人は、騒ぎ立てても無駄だということを植えつけられた。

「騒ぎ立てると返って悪くなる」「黙ったほうがかしい」「しかたがない」などの教訓が、生き延びるために生まれた。為政者たちはこの「あきらめ圧力」をうまく利用した。「長いものに巻かれる」「おかみが正しい」はその発展型といえる。

「あきらめ圧力」の統治効果が絶大であることを知った為政者たちは、さらに民を搾取し、自らを反省することがなくなった。だから理不尽な戦争に国民を動員することができた。人々があきらめてしまえば、世の中はいとも簡単に良からぬ方向へ向かうということだ。

「あきらめ圧力」の歴史は、足尾、水俣をはじめ、重なる薬害事件、公害事件、冤罪事件、原発事件へとつながり現代に至る。

日本人の「しかたがない」の我慢の習性は、「騒ぐのははしたない」「あきらめの美德」とまで美化される。こうして、ものを言わない日本人ができあがった。

そして新型コロナが日本にもやってきた。悪党政治家と官僚たちは、この「あきらめ圧力」を巧みに利用する。

突然の全国休校、使えないマスクの配布、ゴートゥーラベルキャンペーン、本当に困ってる人を救わない休業補償や一人一律10万円支給などなど、お友だちやお仲間を優遇し、新たな利権をつくり出して配分をくりかえす。

感染者を識別するためのPCR検査を制限するのは、病院崩壊を防ぐためだと、関係者はしゃーしゃーと述べる。「国民の命よりも医療体制を守ることの方が大切だ」と言っているのである。

日本の病院は何のために存在するのだろうか。メディアも医者も国民も黙っているのは、「あきらめ圧力」からくるのだろう。

日本という国は、現実肯定の同調圧力が強く、変化を嫌う。改革を主張する人や新しいことをやる人間は排除されていく。

だから堂々と発言せず、陰で愚痴や文句ばかり言う。

あきらめてしまえば、この沈うつな閉塞感から解放されない。沈うつムードが心地よいと思う人がいるはずがない。

我慢を強いられて黙ってられるか! 言いたいことが言えるようにするには、どうすればよいか?

理念なく騒いでも一時の自己満足に終わってしまう。理念が必要なのだ。生きる目標といってもよい。

「あきらめてなるものか!」に共感する人が多いことは、NHKの「逆転人生」の人気で証明される。失敗をくり返しても、ついに成功するという人生ドラマだ。

成功の背景にはたいてい逆転人生のドラマがある。失敗をくり返しても、あきらめて愚痴を言っているより、はるかに格好いいではないか。

突然の首相辞任と後継首相選定の報道は、芸能界顔負けの政治ショーだ。政策論ではなく、人気と人脈、派閥間の力関係で日本の首相は決まる。政治評論家たちの間で飛び交うのは、有望候補へのごますりか、でなければ第三者的な愚痴や文句ばかりだ。ごますりも、影で文句を言うのもみっともない。どうすればよいか!

言いたいことを言うには言い方がある。

スローテンポ書店の懇話会は、課題を見つけ、「じゃあ、どうすればよいか」の課題解決型の話し合いに挑戦している。賛同し協力する人も少しずつ増えている。スローテンポ書店の辞書に「あきらめる」はない。

(ブログ『うさぎもかめも』より抜粋編集)

### プロジェクト参加者募集中!

- ・一箱古本市をロブレで定期的で開催する。
- ・ロブレと小山駅周辺を魅力的にするためにどうするか。

混乱する今だからこそ、本屋に行こう!

## スローテンポ書店

小山駅前 ロブレ地階



日本を見つめ、世界を見つめ、自分を見つめる。本があなたを待っています。

オープン: 火~土 13時~19時 (日月祝日休み)

☆ 懇話会 ディベート型を廃し、課題解決型に取り組んでいます。土曜日午後3時~5時、参加無料。

水曜日から土曜日に変更しました。消毒と換気に気をつけております。感染防止距離を確保して話し合います。マスクをつけてご参加ください。

### ☆ 実用文教室

伝えたいことがきちんと伝わるようにお手伝いします。木曜日午後3時~5時、参加費は資料代含めて、1回500円。